44 飛騨高山（ひだたかやま）

（岐阜県高山市）

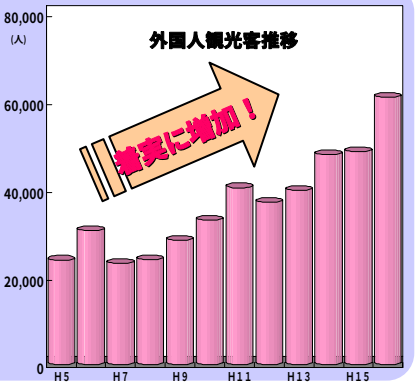
注目　ポイント　！

○　官民一体となった誰にもやさしいまちづくり。

・外国人観光客が安心して一人歩きできるまちづくり

・バリアフリーのまちづくり

外国人観光客数が約24,000人から約61,000人に！
(平成5年)　　(平成16年)



春の高山祭（山王祭）

◇◇ コラム ◇◇

「56豪雪」（昭和56年の大豪雪）による観光客激減により、地域経済は多大なダメージを受けたことで観光産業の影響力の大きさを再認識。これを契機に、民間活力をより引き出し、官民一体となった強力な観光事業を推進することと、対外的な信用性の確保を得る組織づくりが必要と考え、翌昭和57年に任意団体に過ぎなかった観光協会を「社団法人飛騨高山観光協会」として発足させ、会長に就任。以後、常に時代を先取りした企画、情報発信、誘客事業を積極的に展開。

観光カリスマ
(社)飛騨高山観光協会会長
蓑谷　穆氏

これまでの経緯

昭和６１年（１９８６）	国際観光モデル地区に指定、国際観光都市宣言。
昭和６３年（１９８８）	‘88飛騨･高山　食と緑の博覧会が開催される。
平成　８年（１９９６）	インターネットによる情報発信を開始する。 バリアフリー事業の一環としてモニターツアーを開始する。
平成１１年（１９９９）	飛騨･高山コンベンションビューロー設立、国際会議観光都市に指定される。
平成１３年（２００１）	飛騨･高山ふれあい21事業を実施する。（観光客300万人突破） 古い町並み（旧城下町）などを世界文化遺産の登録を目指し、「飛騨高山伝承空間まちづくり推進委員会」を発足する。
平成１４年（２００２）	中国雲南省麗江市と友好都市提携する。
平成１６年（２００４）	「第11回優秀観光地づくり賞」金賞（国土交通大臣賞）受賞。バリアフリーのまちづくりに積極的に取り組んでいる点などが高く評価される。
平成１７年（２００５）	周辺9町村を編入合併し、日本一面積の広い市となる。（東京都とほぼ同じ面積）

※当該地域は「わたしの旅１００選」（平成１７年）の特別賞として選定されたプランに含まれています。

主な取り組み

我楽多市

飛騨高山陣屋前夜市

風情ある町並み（重要伝統的建造物群保存地区）

継続的な観光客誘致活動

平成のバブル崩壊以降、全国的に観光産業は厳しい状況であったが、高山市では観光カリスマ・蓑谷観光協会会長を中心として、現在も続く「我楽多市」などの数多くのイベントを実施。

交通アクセス向上（東海北陸道延伸、安房トンネル開通、JR特急増発等）を契機に主要都市での誘致キャンペーンも展開。

古い町並み（旧城下町）等の世界文化遺産登録に向けた啓蒙活動や、海外都市との友好関係を深めるとともに、外国人観光客誘致を行うなど、国内外に向けての情報発信に努めた。

その結果、持続的に国内外からの観光客数を伸ばし続けている。

バリアフリー観光

高山は、昔ながらの町並みを大切に守り受け継いでいるため、道路幅も狭く、段差等も多い。

そのような事情から、誘導案内看板の必要性を含め、高齢者や身体障害者をはじめ観光客にも決して歩きやすいと言える街ではなかった。

このため、身体障害者や外国人の生の声を聞き、バリアフリー行政に活かすため、平成8年から「モニターツアー」を開始。

モニターより得た意見をもとに、道路の段差解消・車椅子利用者が利用可能な快適な多目的トイレの整備・電動車椅子レンタルのほか、情報バリアを除くため、バリアフリー情報観光端末の提供、多言語併記の誘導看板の設置を行い、さらに観光情報HPによる10ヶ国語での情報発信を行っている。

このように、市民はもちろん観光客にも安全・安心・快適を提供できるよう、官民一体となり「おもてなしの心」を大切に積極的な取り組みを行っている。

モニターツアー

電動車椅子レンタル(飛騨の里)

バリアフリー情報観光端末

多言語併記誘導看板

問い合わせ先

○高山市商工観光部観光課
Tel：0577－32－3333（代表）
http://www.hidatakayama.or.jp　E-mail：kankou@hida.jp